



(縁・円・援)

兵庫えんだよい

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～2040年、予測不可能な未来に向けて、歩みだした兵庫～
令和6年度 こんなことがありました！

実践セミナー：フルモデルチェンジの制度改正で驚いた！



厚生労働省 岸 英二氏

障壁を取りました。
地域でチームになって
進めてください。

こんな風に
変わりました

- ・高齢者のやりたいことがやれるように選択肢を増やす。
- ・サービスだけでなく地域にあるものを活かそう。
- ・専門職も地域に入り、多様な人、活動と共創しよう。
- ・要支援・要介護になっても地域と関われるようにする。
- ・市町村がプロデュースしてください。
- ・次世代のためにも地域共生社会を目指してください。

フォローアップセミナー：「対話」で乗り越えよう



兵庫県立大学 竹端 寛氏

岸氏が「自由にやって」といったのは地域の
人から引き出して、変えていって
くださいということ。

さらに

「地域での共創につながる対話とは」

- ・対話はその人の背景がわかる。お互いに違うことを知る。
- ・専門職は銀行型教育（詰め込む）になりやすい。いま求められているのは課題提起型教育（引き出す）。
- ・COは変化を引き起こす触媒、人々を活性化する装置。
- ・それぞれの思いを聞き、相手の潜在能力を高めていく。
- ・問題の「外在化」… 人と問題を分けて考える。

- ・COが住民と対話をするとき、まずは、判断を横に置いて、分からないから教えてくださいと聞き続ける。
- ・安心安全な場をつくと本音が出てくる。
- ・立場ではなく「私」で話す。
- ・テーマについてともに考え合う「水平の対話」と自分自身の内なる声の「垂直の対話」を重ねていくと意外な展開につながることもある。



【発行元】(令和7年6月6日発行)

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

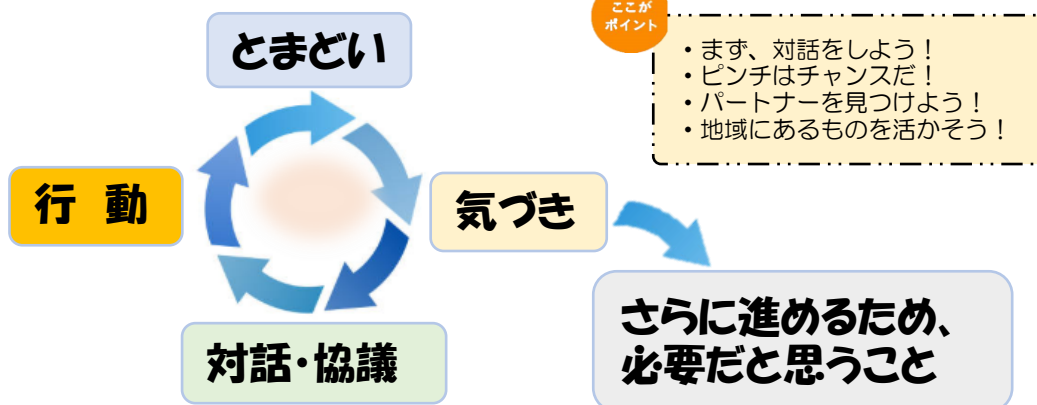
E-Mail: seikatsushien@hyogo-wel.or.jp

(担当：富永・永坂)

各市町に実践セミナー後の状況を聞いてみました！

令和6年12月16日、生活支援CO実践セミナーで厚労省の岸氏にご登壇いただきました。地域支援事業・総合事業のフルモデルチェンジを聞いたその後の各市町の様子を聞いてみました。これは、ほんの一部の声です。

大きく分けて、こんな声がありました



〇〇だけど、〇〇できた (市町担当者の声)

- ・制度改正の詳細はわからないけれど、COの活動が具体的に理解でき、打ち合わせの機会が増えてきたことが一番良かった。
- ・総合事業が自由になってきたけど、自由ほど難しいことはない。でも、COとは定例会以外に地域資源のことも話し合いを始めた。
- ・財政上のことで不安だけど、総合事業をさまざまな主体（ボランティア・NPO等）に地域で支えてもらうことを理解できた。
- ・庁内はまだまだ縦割りだけど、第1層COは包括Cにいたので包括C内では話し合っている。
- ・重層事業を始めたけど、会議だけでは難しい。この改正で住民のことを知るきっかけになり、COと一緒に現場の折衷案を前向きに考えていく。

今までのことも考慮して、こんなことやってます (第1層COの声)

[行政・直営包括支援センターの第1層CO]

- ・包括Cの仕事も多く地域のこと、COのことが十分に把握できていないが、行政として、見せ方をどうするか、COと一緒に話し合おうということになった。
- ・以前から1層協議体のメンバーの再編を考えていたが、制度改正をきっかけに移動支援の意欲を持ったメンバーに依頼した。実践セミナーはとてもタイミングが良かった。
- ・総合事業は十分ではないけれど、生活支援体制整備事業のあり方について第2層COと話し合いをスタートした。
- ・社協と毎月定例会を開催し、猛ダッシュする。
- ・サービスCを行っているけれど、その先に結び付けられるように、社協と要項改正を行ない、今年度行う予定。

[社会福祉協議会の第1層CO]

- ・行政の組織改革もあり、毎月第1層COと情報交換を行うことになった。
- ・市内の包括Cも第2層COと一緒に研修をすることになった。
- ・総合事業の改正に包括Cが理解を示し、行政と一緒に会議を行うことになった。
- ・COが包括Cとともに動き出している。お互いがお互いの顔を見ながら活動ができるようになった。
- ・実践セミナー以降、市町担当者から声がかかり、行政の重層事業担当者（高齢、児童、障害等）と幅広い見方をしていこうと話し合いを始めた。制度改正が後押しになった。
- ・行政担当課の室長、市町担当者ともに理解され、社協と綿密に取り組みたいと行政と社協の協議の場ができた。
- ・協議体をネットワーク会議としてだれでも参加できるようにしていた。この方向性でよかったと実感した。
- ・厚労省があそこまで明確に言ってくださったことは大変ありがたかった。
- ・困りごとは高齢者だけでなく、みんなにつながる。この取り組みが下支えになれば考える。

〇〇だったが、〇〇に変わってきた (第2層 CO の声)

- ・市町担当者と共通認識が生まれ、移動支援や集い場についても視点が変わってきた。
- ・市町担当者が、一緒に住民の声を聞こうという姿勢に変わってきた。
- ・市町担当者がうまく庁内につないでくれる。とてもフランクに話ができるようになった。
- ・行政にはまだ具体的な動きはないが、市町担当者が動きやすいようにしようと、CO全員で考えている。
- ・行政から、住民の生活支援グループに、今年度、助成金を出すことになった。
- ・1月の定例会で市町担当者和他のCOに説明をして、2月は重層事業担当者とCOの連絡会を行い、3月には今後の方向性を話し合った。
- ・市町担当者との話し合いが2〜3か月に1回だったところ、毎月になった。保育園との交流も認められ、驚いている。だから、COは地域でまだ見つけられていないものを探しに行く。
- ・包括Cでケアマネを兼務していると、高齢者の暮らしは介護保険を申請して終わりではない、何かプラスしていかなければならないと感じる。この仕組みをみんなに伝えることにより、高齢者の活動や支え方も広がると思う。
- ・ケアマネとCOが、協働することはとてもメリットが大きい。小さなことから初めて大きくなる。
- ・社協内のケアマネ事業所に共有すると、ケアマネは「利用者に関係が深いところだからケアマネ連絡会に伝える」と言ってくれた。
- ・包括Cの主任ケアマネが、地域にある生活支援グループに敏感に反応し始めた。
- ・厚労省の岸氏の話はとても良かった。フルモデルチェンジと言われたが、今までの活動が正当化されたような気がする。地域で活動する大切さを実感した。

さらに進めるため、必要だと思うこと

市町担当者

- ・これからの研修（基礎・実践セミナー等）には行政も参加してみたい。
- ・できれば総合事業の研修もしてほしい。

第1層 CO（行政）

- ・市町担当者レベルから上層部の管理者（課長等）に研修が必要。
- ・今後は、特にCOと包括Cの職員がつながることが大切。

第1層 CO（社協）

- ・包括Cとともに研修を受ける機会がほしい。
- ・行政の戸惑いも考え、市町担当者が気軽に話せる会、また、NPO・企業向けの制度改正の説明会を開催してほしい。

第2層 CO

- ・市町担当者が研修に参加しやすいようにしてほしい。
- ・制度改正を居宅のケアマネも聞けたらもっとケアマネジメントに幅が広がる。利用者にも明るい情報になる。

みなさんの声から、こんなこと見えてきました！



ここがポイント

未知なるものに向き合うためのヒントがいっぱい！

さらに、こんなこと聞きました！

パートナーシップ

ここがポイント

COが、つなぐこと。今は小さくても、これからの地域住民の大きな幸せにつながっていくと信じます。

移動販売の企業を知ることも、暮らしを守ることにつながる（宍粟市）

宍粟市では、コープこうべ、カワベ、マックスバリュなどが移動販売を行っています。過疎地だけに企業の撤退を防ぐ必要があります。そこで、COは、停留場の状況を確認し、「自治会でやりませんか、地域を挙げて誘致しませんか」と自治会に声をかけ、働きかけを行っています。「お買い物をしたいが、歩けない人がいる」といった声を専門職から聞くと、何とかならないかと考え、企業や他の利用者にも話をし、停留所の位置を変えたりもしています。また、移動販売の日に自治会が町内放送をしたり、地域にある他の工場や施設等にもつないで販売先を増やすなど、移動販売が継続されるよう工夫しています。

COは、企業との関係性をつくり、移動販売を地域全体に広めるのに5年かかったと言います。地域の高齢者の暮らしを守るため、常に地域にも企業にも専門職にもアプローチを考えています。

臨機応変に伝える

楽しい要素を入れながら2040年問題に触れてみた（芦屋市）

実践セミナーには、第1.2層CO・行政が参加しました。受講後、CO会議等で振り返りをし、それぞれ危機感を持ったものの、どのように2040年の問題を住民に伝えていけるか、何を取り組むか、答えが出ませんでした。まずは少しでも住民に伝えることが出来たらとの思いで、2月にフードドライブ交流会でフードロスに関するクイズを実施する予定にしていたため、そこで人手不足に関連するビンゴゲームを行い、楽しい要素を加えながら伝えてみることにしました。その際、第2層COより人手不足の現状（ヘルパーだけでなく家政婦も不足、なかなか見つからなかったこと）も報告。その後、「10年後どんな地域になっていたらいいか？」をグループで話し合いました。「おせっかいな人を増やす」、「今の家で暮らし続けられること」といった意見が出て、そのためには「支え合える近所づきあいが必要だし、そのために私たちはいろんなことに取組んできた」と活動の意義を確かめる機会になりました。

生活支援CO「えん巡りの旅」：こんなことありました！



第2層協議体



1POME こども村



各市町の活動を教えてください。



高齢化問題と移住した青年の志をつなぐ（加東市）

加東市の第2層協議体とこどもの居場所づくりに参加してきました。第2層協議体では、買い物支援の課題に対し、移動販売の継続が難しいことや、地域のつながりが減り、災害時の避難や地域イベントの参加者が減少していることについて、熱く協議が行われました。午後、加東市を活動拠点とする青年から、こども達が対話し、自分で考え、行動することで気づき学んでいく「1POME こども村」の活動の話伺いました。加東市の第1層CO、第2層COは、高齢化が進むこのまちの新たな動きを敏感に察知していました。それは、高齢者の課題は、高齢者だけで解決しないという視点をもっていただからです。世代を超えて、誰もが、わが町を良くしたいと願っている人たちをつないで行こうとしています。もしかすると、わがまちにも、まだ知らない宝物があるのではないかと感じた一日でした。

【編集後記】

今回は、実践セミナー終了後の変化を知るために、41市町の参加者に聞き取りをさせていただきました。そして、兵庫県全体がゆるやかに、しかし、力強く動き出していることを感じました。2040年に向けて新たなステージになり、待たなしで取り組まなければならない現実について、行政、専門職、住民、企業等と話し合っていく必要があります。「次世代のために」と言われた岸氏の言葉通り、今、我々のしなければならないことは何か。誰もが真剣に取り組まなければいけない時期に来たと実感しています。

お知らせ

市町担当者・管理者会議

日時：7月8日（火）13:00～16:30

場所：兵庫県福祉センター

生活支援CO基礎セミナー

1日目 日時：7月16日（水）10:30～16:30

場所：兵庫県学校厚生会館

2日目 日時：7月25日（金）10:30～16:30

場所：兵庫県のじぎく会館